

1 日 時 平成23年5月30日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市役所北庁舎3階 第5会議室

3 出席者（敬称略）

(1)委員14名

川内 清文、小林 清次郎、坂本 智子、澤井 幸子、設楽 厚子、  
芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、  
平形 芳郎、比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

※ 小林 繁委員は欠席。

(2)職員7名

糸満教育長、斎田文化スポーツ部長、後藤文化スポーツ部次長、  
澁谷生涯学習スポーツ課長、茂木生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、  
市ノ川企画係長、大木事務職員

#### 4 糸満教育長挨拶

日頃府中の教育行政にご理解、ご協力頂き心より御礼申し上げます。また大変お忙しい中、当審議会委員を引き受けて下さり誠に心強く思っております。先程会長からの話にもあったように、大震災後、全国の教育長会に出席し被災地の教育長さんからの話も聞いてきたが、やはり地域力、コミュニティーといった力が大切だということを感じて帰ってきた次第である。

府中では第二次府中市生涯学習推進計画を推進中であるが、皆さんにご検討頂き前回第四期では「学び返し」の地域への還元という話をさせて頂いた。その中で「おせっかい精神」を大切にしていたほうがいいという話があったが、分かり易く具体的にいいことを教えて頂いたと感じている。「学び返し」というのを初めて勉強させて頂いたが、自分で学んだ事を自分だけのものにしておくのではなく、地域に還元する或いは後進に教えていく、そういった事が大切な事なのではないかということが「学び返し」というキーワードなのだと学んだ。

生涯学習は狭い意味では社会教育だが、私ども学校教育に携わる者からすると幼児教育から学校、家庭そして地域まで一貫した流れの中で生涯学んでいく、それが本来の生涯学習なのであらうと感じている。我々団塊世代が社会人としてのピリオドを打って地域に帰ってくる、そういった中で非常に生涯学習の需要が高まっている。しかし一方では色々学んできた事を何か地域に還元したいなと思う人が大勢いらっしゃると思う。そうした中でマッチング、コーディネーター役がなかなか難しいという点

がある。需要と供給をどのようにしてうまくマッチングさせるのか、ということがファシリテーター（これも初めて学んだ言葉であるが）という方がある意味コーディネーター役を果たしてもらえるものとも思う。

市民の自主性を尊重しつつも行政も何らかの役割を果たさなければならない。そうした市民と行政の連携、役割分担をどの程度の場所に置くのかが大切な課題になってくるものと考えている。府中の生涯学習の今後の充実、発展のために当審議会の皆様のご協力を賜りながら、更に充実発展させていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく。

## 5 齋田文化スポーツ部長挨拶

当審議会に関わりのある仕事をして4年目になる。任期でいうと3期。何人かはメンバーが代わられたが、3年間ずっと勤めて頂いている方もいらっしゃる。最初の2年間は直接担当していたので会議にも必ず出させて頂いていたが、昨年からは直接の担当からはずれたので、年に何回か出させて頂いている。皆さんが本当に真摯に、活発に検討されていると感じている。会議自体もいつも大変素晴らしいと思出席しているが、年に何回か行われる懇親会も非常に楽しく、大変勉強になるお話をされている。できるなら今後も出席したいと思っている。今回も諮問が出され2年間かけてご検討、答申頂く、ということになるが、今まで通り活発な意見を交わして頂きたいと思う。

## 6 後藤文化スポーツ部次長挨拶

4月に異動してきた。以前は福祉保険部地域福祉推進課でその前が、文化振興課、そして生涯学習課、社会教育課、というところにいた。今非常に懐かしく感じている。「学び返し」という言葉を最初に皆でやっ行って行こうという時代に携わってきた。しばらくぶりとなったが、また携わらせて頂くのでどうぞよろしく。

## 7 諮問の伝達

府中市生涯学習審議会 芝会長

府中市教育委員会 糸満教育長

諮問 府中市の生涯学習における市民と行政との協働について

## 8 連絡事項

1) 配布資料の確認

①レジュメ、②前回会議録（案）、③諮問書の写し

2) 前回議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部校正後、市民に公開すること、ホームページに掲載することが了承された。

### 3) 川内委員（本宿小校長）自己紹介

- 諮問に「学び返し」を通じた地域協力の向上とある。本校の学区にお住まいで、長らく外国勤務だった商社を退職された方がいらっしゃる。小学校では今年から5、6年で外国語活動が必須になり、週1回英語を学習しているのだが、先生たちが困っているのでは？というお申し出を頂いた。お役に立てるなら、ということでお声を頂きありがたいことでした。また、毎年児童のおじいちゃんが四年生に昔の府中のことをお話しして下さったり、或いはJAの方々などに作物を植えて農園活動のお世話になったりしている。勿論、保護者の方にも読み聞かせをして頂いたり色々なところで「学び返し」というか、地域の方々に学校の中に色々入って頂いて、直接色々なことでお世話になっている。是非学校でも「生涯学習」というようなことをどういうふうに取り入れるか、ということをお場で学んで行きたいと思うのでよろしくをお願いします。

## 9 協議事項

### 1) 都市社連協 定期総会（4月16日）の報告、感想

- 研修会で沼津市の社会教育協議会の方が「地域コミュニティと社会教育」という演題でお話をして下さった。それぞれの地域で工夫をされていることが多くあるのだが、事業仕分けということで随分色々なことがカットされていく、しかしその中でそれぞれが工夫をして生涯教育というものに努力をなさっているというのを感じた。中でも住民の中で自分のやりたいものを積極的に披露していくという機会を設けていて、地域の中で生涯学習地域推進委員を各地域一名選出して地区ごとにそれらを推し進めていく、ということがすごくいいと感じた。
- 静岡には15年程住んでいたことがある。最近は何事かをかかえているが、色々考えてまずは周りをきっちりしたものにしていくということで、その中で言われていたのが、当たり前のことだが、情報をそれぞれのグループにいかにかかえるか。色々工夫されていてやっているということで、見習うところはあるのかな、と思う。
- どこの地域でも一生懸命やっているなと感じた。社会教育委員という立場の人がどうしているか余り知られていない、という意見が心に残った。
- 市が市民活動のために色々な施策をしているなと感じたが、なかなか実現できていないんだなというところで苦労されているのだな、と感じた。施策はあくまでもお上からのお達しになりがちであるために盛り上がりが少ないのでは？と思う。

横のつながりを機能させるということがうまくいってないことが一因かと思う。集まっていい話を聞いて終るのではなく、そういう人々を結び付けていけるような働きかけがこういう場で話しあえればと思う。

- 社会教育委員として目に見える活動をしていきたいということと、どうやって影響力を出していくかという形を模索しているなど感じた。

## 10. 諮問について

[意見の趣旨]            ■ : 委員        ➡ : 事務局

- 「諮問 府中市生涯学習における市民と行政との協働について」ということで、答申していきたいと思うが、いつも中間答申があるが2年で1つの答申という理解でよいのか。
  - ➡ 例年だと2年の真ん中に中間答申があるが今年度については2年を通して1つの答申を出していくことになる。
- 前回「今後の当審議の進め方」について考えて頂きたいとお願いしたが、ある委員より他の地域を訪問して研修することも必要ではないかという意見もあったが、そういう形も2年の中でやらせて頂けるか。または何か意見はあるか。
- 「学び返し」というのを中心にして府中市内でそういう前向きな活動をしている団体を訪ねて意見を聞いていくという活動をしてはどうか。熊野神社古墳保存会は氏子さんが中心になっているが、それに関わらず市民の方も中に入れていこうということで、生まれたての実践をしている。今年の総会では人員の入れ替えもあって、前向きになっていると感じた。新旧住民の融合が大事。

前から思っていたが、府中市内で生涯学習センター、コミュニティ協議会、府中の森芸術劇場のそれぞれでお祭りをやっている。同じようなことをしているので、何で分けなければいけないのか不思議に思っている。合併して大きくできないのか。
- 文化センターの場合だと自主グループの文化祭というものもある。
- 新任で地域の関わりがなかったので、よくわからない。今回も新任が半分くらいいるので、一般的には現状がどうなっているのかが知りたい。専門家に話しをしていただけるような場が1回くらいあっても良いと思う。
- 審議会の中では資料で渡したほうがいいのか、話を聞いたほうがいいのか。
- それは臨機応変にお願いしたい。
- ➡ 市の府中市生涯学習推進計画と便利張の中に入っているものがうまくまとまっているので、その中のものをお渡しすることならできるが。
- 個人的にはほしい。
- 資料を初めて目にしたが、こういうものがわかっていないと審議会は進められな

いなと思った。また、審議会委員も色々な分野からいらっしやっているようなので、そういう方たちから色々な話が聞くことができればと思う。資料も窓口に行かないと目にすることがないので、少々宣伝が足りないのでは？

- ➡ それぞれ自分が関わっているような活動を聞いたり、或いははじめ事務局の方に施設の部分を聞いたりする等、導入しながら会議を進めて行くということによろしいか。
- それに関連して今回の答申だが、こういう話が出るバックグラウンドとしては恐らく市民と行政との間に距離があるのだと思うが、その距離をできるだけ縮めて一体化していきたいという希望があるのだろうと思う。市民が参画してくる場合、市民がどのように参画できるのかという場を列举して、「こういうことも参画できるんだ」というプロジェクトごとに提供していく。もうひとつはシステムとしてその中で市民が参画していくということを一度列举してリストアップしていったらどうかと思う。
- たくさんの意見を頂いたが、すぐに答えを出せないものばかりなので、来月からまた皆さんと一緒に考えていきたいと思う。色々な機関の現状がわからないというご指摘があったが、今日は宿題とさせて頂きたい。設楽委員は文化連、山内委員は悠学の会、三宅委員はNPO、澤井委員は青少対と文化センター、鈴木委員は自主グループ等と委員の選出母体がある。その話を次回、伺えたらと思う。
- 予算を落とさないで、とおっしゃっていたが、多分当審議会はこれからお金が出せないからという方向で行政と市民が緊密になろうというのが大前提だと思う。今までお金を使っていたところを使わないでやりましょう、極端に言えばお金の要素を取る。何が残るかと言えば山内委員の「悠学の会」のように好きでたまらないという場合か、或いは何かのプライドがあるか、この二つだと思う。私はプライドが非常に重要で、ファシリテーターの時も何かの資格を与えた方がいいと思ったのだが、市民と行政を繋げるなら何かのプライドを与えた方がいいと思う。

私は姫路市の観光大使で、姫路市では生涯教育大学みたいなものを作っている。そこへ行くと2年ぐらいで卒業できる。アメリカではシティカレッジ（市民大学）というものがある。2年で卒業し、資格がとれるから日本であまり勉強できない子供たちがそこへ行ったりするのだが、或いはコミュニティカレッジへ2年行けば普通の大学に入学できるというシステムがある。今は専門学校からも2年終えてから3年生に編入できる。そうすると一種のステップバイステップのプライドなのである。

恐らく今後こういう地域のやることは、そのプライドをどういう具合で与えるかということだと思う。日本で失敗したのは大学の二部に社会人（或いは主婦）を作

文ぐらいだけで採ってしまった。それで失敗して今や夜間が段々なくなっている。そういうのを引き受けるのがこの「地域」なんだと思う。二、三年、五年行っても何らステップバイステップで上がれないが、山内委員みたいに好きな人は別である。そうじゃない人もそこに入れて行くということは、今後二年のうちに考えて行くべきことかなと思う。言わばお金を出さないプライドだ。免許証一枚というようなもの。それが何かの資格になればいいと思う。

最近では東北にボランティアに行ったということを入学の時に推薦状と共にたくさん写真をつけて来る。それをどのように評価するかはまだきちっとできてはいないが、評価しつつある。また外国でもアフリカへ行ったのでスワヒリ語が少しできるとなるとそれが何かの形で大学に入れても私はいいと思う。くだらない試験で一点でも多い人を採るより優秀な人が入って来ると思う。ちょっと目ざといが、何か還元されるものがあつたほうが好きじゃない人もそこへ入れて行ける。是非「学び返し」という中でちょっとしたプライド、資格を与えて行くというのはいいい事だと思う。

- それがきっかけ作りになればいいと思う。
- 生涯学習センターでカレッジ100というのをやっていると思うが、それを網羅した方は何らかの資格、修了証みたいなものはあるのか。
- ➡ カレッジ100単位に関して言うと「修了証」は発行している。
- 100単位、或いは500単位持っている方もいるが、9月の生涯学習フェスティバルでそういう方たちの話を一度聞かせてもらおうということでボランティアサロンみたいなものを検討するという動きはある。
- どのような形にせよ現在進行中であるということ。
- 名誉市民もプライドのようなもの。本人もプライドをもち、まわりも認めるような生き方は重要なことだと思う。名誉市民ができたのもそういう理由からだと思う。是非単なる点数集めではなく、経験や思想が周囲にも役立っているということが「学び返し」なのだから、お金が出せなければプライドを与えるということはコミュニティとして大変良いことだと思う。
- 現役時代は組織の名刺を出していたが、退職した翌日から名刺が作れず、どこへ行っても「無職」でなんとなく、ためらってしまいがちだった。例えば府中市教育委員会が認定する地域の「リーダー」とか「マネジメント」とか「ファシリテーター」などといった、もっともらしい肩書きを証してもいいよ、という事例を差し上げれば「ああ、私は地域のリーダーとして認知された人間なんだ。だから市で一声かけてくれればそこへ行って、今度は地域に戻って周りの人たちを引き込むようなリーダーになるぞ」という意識改革にも繋がる。そのリーダーを組織化して連絡網

を作る等すれば、一声かければ各代表が集まって、このことを地域に伝えたいと言えればそのリーダーを（言葉は悪いが）活用して遣いこなすというようなことがあると、どんどん色々な施策が地域に根付いてくるのではないかと思う。たかが紙一枚かもしれないが、個人にとってはすごく励みになるし自分の能力を認められたという気持ちを与えるということは非常に大切なことだと思う。

- そういう賞状みたいなものを頂く場合があると思うが、問題なのはそれを活躍できる場がこの中にあることだと思う。利用する場が市内でもなかなかない。取ったよという自己満足で終わってしまう。それを何らかの形で活躍できる場を作ることが必要だと思う。
- そのためには地域の中にどういう団体があるのか、どういう組織があるのかということ網羅して、その団体がどういう目標でどういう人たちがどういう活動をしているかということリストアップして、これだったら誰でも受け入れられますよという情報を皆に与えてあげることによって腰を上げる人が増えてくると思う。自分もどんな団体があるのかさえよく知らない。色々な目標、目的を与えることによって友達ができる場になり、行動力が発展する。このように後押しのきっかけを誰かが始めないと、情報がないままだと話は一向に進まない。誰かが勇気を振り絞って始めれば、少しずつ市民の意識が向上してくるのではないかと思う。
- 行政とは直接関係ないのかもしれないが、シルバー人材センターに登録されている方々は色々な所でお仕事されていたり色々な技術、知識、資格をお持ちの方がいらっしゃるので、そういう方たちと連携すると更にファシリテーター的な自分の知識を「学び返し」して下さる方が多いのではないかと思った。シルバー人材センターというと、すぐに連想するのは自転車の整理、休日の文化センターで職員の代わりにいて下さる方たち等ですが、実は宝の宝庫なのではないかと思った。その他にも仕事を個人でやってきている方もたくさんいると思うので。シルバーセンターの組織との交流もいいかなと思った。もしかしたら、素晴らしい人材がいるかもしれない。
- そのためにはシルバー人材センターがどういうところであるかということも、一度教えて頂けたらと思う。
- シルバー人材センターは、お金を払って登録をする。その後センターからこういう仕事があるという連絡を受け、やるつもりがあれば契約し有償で仕事をするということになっている。
- 例えばファシリテーター的なもの、あるいは「学び返し」をして下さいという募集のようなものをシルバー人材センターの方たちにも宣伝して頂く、という意味で。自分が今まで会社で仕事をしてきたことを活かしたいのに実際にはシルバー人材

センターでは受け付けてくれる仕事に限られているために自分の力を発揮できないという声を聞いたことがある。そういった方たちは先程言われたように「プライドをくすぐる」というか、もしかしたら喜んでご協力頂けるのではないかと思った。お金目的ではなく地域貢献したいというボランティア精神の方も多いと思う。そういった方たちを呼び込むというか。

- 私も社会福祉協議会にボランティア登録をしている。幅広くするならばボランティア登録している方たちにも声をかけるべきだと思う。年に1度、特技や資格などを書いて登録更新をするので、特技を持っている方も多いと思う。
- 先程の、それぞれの選出母体の話ができるような形を来月お持ち頂ける様にお願いしたいと思う。口頭で良いが、資料があるところはお持ち頂ければありがたい。事務局のほうでも来月資料を持ってきて下さい。
- 生涯学習フェスティバルはこれからあって、中身の活動についてはこれから。参加資格はない。自主グループの体験教室をしたり、一部の20団体くらいには助成金が出たりもする。市民発表会ではフラダンスや子どもの楽器演奏がある。
- 事務局の方で運営している講座についても、その都度配布されるので、時間がゆるすかぎり参加していただきたい。
- ➔ 生涯学習フェスティバル自体は、市民の方たちが集まって実行委員会形式でやっている。その応募の仕方等については、いろいろな企画を考えていただいたり、ポスターやチラシ作製などのPRしていただいたりしている。去年から実行委員会の方を中心にやっていた。
- 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロックというのがあるが、その中で研修会が10月22日(土)14:00~当番市である三鷹で行われる。企画等はブロック会議で決まっていくのだが、三鷹市が企画しているテーマは今年の市町村の統一テーマ「学びあい、育ちあい、関わりあう地域を作る 地域を包み込むネットワークづくり」に沿って、学校を舞台とした支援ボランティアの取り組みについて話を進めたいということである。事例発表として、三鷹、狛江、府中の3市が行うことにほぼ決定している。府中市も15~20分の事例発表をするのだが、どういった事例発表をしたらいいか、お知恵を拝借致したい。
- 学校関係だと放課後子ども教室をやっているのだが、学習支援となるのか、課外活動支援になるかということで話は変わってくると思う。学級支援の中の学習支援となるとあまりないと思う。
- どなたか関わっていらっしゃる方はいらっしゃるか。川内委員いかがか。
- 放課後子ども教室は全国区の取り組みで、府中市だけではない。府中市の実態で

お話するのは構わない。

- ➡ 外語大でも外国人の生徒たちへの支援をやっていたと思う。生徒を支援ボランティアとして学校に派遣するという形。今でもやっていると思う。
- 外語大の先生にお願いすることは可能か。
- 毎年、資料が外語大から来るので可能だと思う。
- 学校だけではなく、田んぼの学校というのがあり、行政と農工大と環境市民の会の3団体で協力してやっていた。今年はやらないみたいだが、畑の支援をしていて、とても良いと思う。
- どこまでの中身でいくのか。外語大の場合は特定の学校への派遣状況はわかる。田んぼの学校の場合は、いろいろな学校から集まった子どもたちに田んぼについて学ばせるものなので、それでもよければ映像もあるので良いと思う。
- 事例発表の内容については、検討させていただく。

#### 1 1 次回の審議会開催について

第3回：6月27日（月）午後2時～4時

府中市生涯学習センター 1階会議室